

2月

ソフィアだより



地震にも負けない 強い心をもって  
亡くなった方々のぶんも 毎日を大切に生きてゆこう  
傷ついた神戸（ふるさと）を もとの姿にもどそう  
支えあう心と明日への希望を胸に  
響きわたれ ぼくたちの歌  
届けたいわたしたちの歌しあわせ運べるように  
届けたいわたしたちの歌しあわせ運べるように



地震にも負けない強い絆をつくり  
亡くなった方々の分も 毎日を大切に生きてゆこう  
傷ついた神戸（ふるさと）をもとの姿にもどそう  
やさしい春の光のような 未来を夢み  
響きわたれ ぼくたちの歌  
生まれ変わる神戸（ふるさと）のまちに  
届けたいわたしたちの歌しあわせ運べるように  
届けたいわたしたちの歌しあわせ運べるように



届けたいわたしたちの歌

しあわせ運べるように

作詞作曲：臼井 真



阪神淡路大震災から30年、1月17日はたくさんの震災の報道がされていました。その中に、ご自身も神戸市東灘区の自宅が全壊となり、被災された、小学校音楽教師の臼井真先生が作られた、『しあわせ運べるように』の歌が流れていました。当時、喪失感しかない自分をそして目の前に広がる無残な町並みを見て、なんとか立ち直りたいと一気に書き上げた歌です。と話され、その歌が30年の年月の中、日本を越えて海外でも歌い継がれていることが伝えられていました。小学生たちが清らかな歌声で歌うこの歌を聴くと自然に涙がでます。（検索するとすぐに聴けます）「当たり前なことは当たり前じゃないのだと思いました。」「自分の命を大切にそして、あまった力で人のことも大切にしたいです。」歌をうたったこどもたちのインタビューの言葉でした。音楽や文学や目に見えない教育の力は大きいと感じます。

先日、5歳児のこどもが、「戦争はいややからなあ、平和にしてくださいって神様にお祈りしてん」と話してくれました。心豊かで、きよらかなこどもの心は、心豊かな大人から育ちます。自分たちの力ではどうにもできないこともある現実ですが、強い心、強い絆、支え合う心を、忘れないように、子ども達には伝えていきたいと思えます。

2月、節分の月。大人になっても日々顔を出す弱い心の鬼を退治しながら、ピュアなこどもたちに、やさしい春の光のような未来をみつづける保育を展開していきたいと思えます。

ソフィア東生駒こども園 園長 中畑 直実